

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102836		
法人名	SOMPOケア株式会社		
事業所名	そんぽの家 グループホーム 岡山平井		
所在地	岡山市中区平井3丁目1066-2		
自己評価作成日	令和 2 年 1 月 17 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigvoCd=3370102836-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigvoCd=3370102836-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 2 年 1 月 28 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的でゆったりした時間の流れる施設で個別に合わせた援助を行い、居心地の良い空間で自立と自律に向けた支援を行ってます。ご本人様、ご家族様の要望をよくお聞きして選択肢を提供することでより高い顧客満足度を得られるように努めてます。地域との繋がりも大事にして地域の一員として役割を持って生きれるように地域の行事にも積極的に参加するように努めてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

どなたにも気持ちの良いお風呂を提供でき、職員の負担をできる限り軽減できる先進的な機械浴の導入、そして、夜間の居室の転倒やリスクの状態がいち早くわかるねむりスキヤンの活用を実践している。また、新施設に移転をする上で、職員自身が、何をどうすれば利用者へ還元できるかを自問自答し、同施設の有料老人ホームから違った角度から見ることで大きなメリットを得ている。起ち上げ時は多少のプレッシャーとはなったが、やりがいに芽生え、個々の自信となっていて、スタッフの視野が、大きく広がっている。特に、どのスタッフも立ち止まって大きな声で気持ち良い挨拶をされ、スタッフの前向きさが十二分に伺われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ経営理念を掲示と各職員へ配布を行ないカンファレンスにて定期的に確認を行っている。 また、SOMPOケアの理念として「人間尊重」を軸に自立支援を実現することを心掛けている。	2週間に1回、定期的に確認をしている。そして、理念カードを名札の裏面に入れ、常時、経営理念を忘れないように心に受け止められるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加盟、地域の行事などに積極的に参加している。平井学区の運動会では町内の一員として参加している。11月に引越して丁目が変わったことにより新たな関係作りにも励んでいる	地域の運動会や清掃活動に参加している。また、ボランティア、劇団が定期的に催しをし、観劇やマジックショーなどで、利用者の喜びを満喫させている。職場体験や保育園の訪問などの声掛け推進も考えている。	新たな交流が浸透できるように保育園・幼稚園とのご縁を深める行動を期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ認知症高齢者についての症状や介護での困りごとについて施設の取り組みなどを紹介し地域の人々にとっての理解の場となるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご町内の方、地域包括、ご家族、ご利用者様などに参加していただき様々なご意見を頂いております。そこで得られた意見は運営や業務に生かし、次回の運営推進会議でご報告いたしております。	町内会長、民生委員(連合町内会長)、家族も参加している。また、地域包括、事業者指導課も参加。早期のアドバイスやノロウイルス情報などの注意点を伝達してくれ、改善に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に事業者指導課の方や地域包括支援センターの方に参加して頂いている。	地域包括医支援センターや事業者指導課の職員の運営推進会議に参加が目立ち、施設長を中心として、利用者の窓口となり、どんな情報も受け止め、職員全員が周知できるように導き実践している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束する事でどのような弊害が起きるか正しく認識するために、毎年研修を行っている。直近では、外部研修へも参加。玄関は10時～19時の時間帯で開錠している。	拘束はしない方針を前提に、理解できていない職員や新しい職員の基礎知識として、定期的に研修や3ヶ月に1度の拘束委員会で、全国の事例を活用してわかりやすく勉強をしている。特にグレーゾーンの範囲も理解できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社内で毎年研修を行っている。又、通報窓口を設けておりその間口を相談しやすいものとして配置している。また、日頃から不適切ケアについても早期発見に努め注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に関しては、研修等で学ぶ機会を設けている。成年後見制度については、必要な際に制度のご案内・説明などを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、不安や不明な点がないか確認している。内容により交渉を行い、納得を得るよう努めている。ご署名は、重度な障害以外の方は本人様にいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、入居者様やご家族様から頂いた意見をご要望カードに記載し迅速な対応に努め、カンファレンスでも話し合い介護計画へも反映させている。	面会時に要望カードを作成し、職員全員でミーティングしている。「食事の開始時間が早い」との利用者の意見も配慮し、利用者の思いを叶うように検討し改善している。カンファレンスで周知できるように、申し送りノートを活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場での援助内容の確認を行い意見を聞いている。必要に応じ意見交換の場をカンファレンスにて設けている。個別面談を行ったり、事務所扉を開けていたり現場を巡回するなど職員とのコミュニケーションを図るよう努めている。	カンファレンスを職員の意見交換の場としている。2ヶ月に1回行い、勤務時間や体制について納得がいくように、管理者が聞く姿勢をとって検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設け職員が向上心を持って働く事ができるよう努めている。勤務状況に無理がないよう定期的な有給取得できるよう状況を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア別の研修を行っており、介護の知識や技術を習得できるようにしている。また、施設内外研修にて参加したいと思うような研修の提案を行い、やりがいに繋がるような働きかけを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡山地区の職員が、研修時のグループワーク等で意見交換やASの取り組みなど、交流を図れる場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様にご協力頂きながら、ご本人様の生活暦を把握し、何度かお話し安心して話してくれるよう、少しずつ進める関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にご不安に思われている事をいろいろな視点で聞き取り察しながら、ご意見をいただきお答えする事での信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様にとって、今一番必要な援助とは何か、実際に本人様の状態を観察し、聞き取り内容と合わせて、障害を負う前の生活を基本とし見極めよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様にとって大切な事、思い入れのあること、こだわりのあること、それらをしっかり把握した上で接する。その方をしっかり知る事からの援助を行い、寄り添っていけるよう心掛けがけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様のご本人様との関わり方を拝見しながら、個々にあるご家族様の思いを大切に。日々の報告を直接やお手紙にてお伝えし、一緒に過ごせる時間作りのお手伝いをさせて頂き、ご家族様とも信頼関係を持てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔のご友人や、ご近所の親戚など、来訪時には歓迎している。以前カラオケをよくされた方がいらっしやっただのでカラオケが出来るように機会を設けている	新しい利用者がカラオケが大好きなので、いつでもカラオケができるように配慮している。利用者の方がムードメーカーとなっている姿を拝見した。また、家族と食事に行ったり、友人の来訪があったりすると、ホームの雰囲気、急に明かるい状態になり、施設の雰囲気が増している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の様子の中から関係性を観察し、席の配置の配慮やアクティビティの種類など共に楽しめる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も退去先へ訪問したり、お電話で近況をうかがったりしている。お茶を飲みに寄って頂くなど、これからもいつでも気軽に来訪して頂くようお願いさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方にとって過ごしやすい環境とはどのような事なのか、生活歴などからの把握に加え、関わる中での本人様の反応などと合わせて観察し、私がこの方の立場ならと自分に置き換えて考えてみるなどを取り入れている。	利用者の生活感を重視し、通常とは違うことを話されたときに気をつけて記録をとり、職員全員が周知できるようにしている。家族の訪問時やメール・手紙で確認をし利用者の本位を把握している。新しい利用者は、職員ができるだけ家族と親密に話し合っ、情報取得を習慣化させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、生活の場や大切に思われている所や物など、事前に写真を撮ったりご用意いただいたりし、ご入居後も継続的な情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動観察の中から、できるADLとしてADLの話し合い、一週間ごとにモニタリングを行い援助統一し、自立した生活ができる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様にとって必要な援助に対し、ご家族様にも無理がないよう、ご協力いただけるところは現状との兼ねあいを考慮しながら、カンファレンスで話し合い出来る事を伸ばしていけるような介護計画を作成している。	主治医、職員の意見を参考とし、家族の思いを尊重しながら、本人の意見と希望をフィットさせている。そして、3ヶ月に1回のモニタリングを生かして介護計画を更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録には、その時の様子や発言内容など細かい内容を記載、全体の申し送りにはその日・一週間気をつけることを記載し情報共有しながら一週間ごとに見直し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すぐに対応可能なものはすぐに対応している。すぐに対応できないものに関しては交渉も交え外部資源などの活用を考えながら取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の運動会やお祭りなどの行事には積極的に参加している。推進会議などでは地域の方に参加いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期訪問診療を受けていただいている方、その他で希望される方、ご本人様とご家族様のご要望を大切に選んで頂いている。	基本的に、入居時にかかりつけ医を選択していただいている。受診対応は家族と相談しながら、インフォームドコンセンスを大切に、医師との関係を深めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週3日以上勤務しており、日常的に体調管理を行い、様子の変化などこまめに情報を伝え特変の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関へ情報提供を行っている。入院中はお見舞いに伺い看護師様やソーシャルワーカー様と連絡をとり相談するよう努めている。また、退院に向けご家族様とも連携をし、退院カンファレンスが開催される際には参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様、主治医と話し合いの場を設けるようにしている。体調変化の大きい時には家族様にも往診に立ち会っていただき、直接主治医との話し合いの場を設け情報を共有できるようチーム全体で看取りまでの支援に努めている。	看取りについても入所時に書類説明を十分に行い、利用者・家族とも納得がいくように関係を深めている。主治医と家族で深く話し合うことで、今後の方針を決めている。また、ターミナルのことも気遣いし、希望の病院を依頼できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて緊急時の対応を学んでいる。緊急対応マニュアルを作成し適切な対応が出来るようにしている。また職場内にも掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、消防避難訓練を行っている。消火器の設置場所や気をつけることを普段から周知できるよう、点検日を設けている。災害時用の備蓄もあり地域の方にも呼びかけている。災害時マニュアルの周知も行なっている。	避難訓練は利用者も参加している。水災・震災時の避難もマニュアル化し、同施設内の2階に避難がスムーズにできるようスタッフと何度も訓練し、「より安全に」をモットーに職員で検討している。備蓄も3～4日分は確実に保持し確認している。	避難経路をさらに見える化して地域の方も理解しやすいように、参加依頼を促していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症高齢者に対し、ユマニチュードの基本的な技法を取り入れ、人格の尊重に重点を置き援助を行っている。	接遇には気配りしている。特に、敬称・言葉遣いをスタッフ全員で心掛けている。そして、東京の研修センターからWEB配信された研修をスタッフ全員で学習し、個別に周知できるようにレポートでさらに深め、高いレベルを維持している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情やなにげない言葉の中から、ご本人様の希望を汲み取り表出しやすい働きかけが出来るよう、細かな観察や職員同士の細かな情報収集に力を入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴を重視し、その方一人一人の生活を重視し、個別のケアを大切にしている。また、スケジュールの中においても、その時々に合わせて対応を心がけ無理な援助は行わず、時間をずらすなどし支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や身だしなみには気をつけ、どんな色や格好がお好きなのか、それぞれの好みを聞き取りや生活歴や持ち物などの中からその方を知った上で援助できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一緒に摂っている。給食以外にも、鉄板焼きや鍋などいろいろな形で用意し、好みの把握をし、楽しみにつなげている。食前後にテーブル拭きのお手伝いをして下さる方もある。	SOMPOケアフーズの調理・配膳を利用している。「今月の献立」というカラーのパンフレットで、食事は紹介されている。行事食、季節食も工夫を凝らしている。刻み食、ムース食も利用者の状態に合わせ、味付けも地域柄に工夫をし、魅了している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の足りない方には水分やカロリーを考慮し特別食や捕食の検討や好物の把握をし家族様へご提案したりし対応している。また、その方の嚥下状態や好みに合わせ食事形態やお好きな食べ物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせた食事前後の口腔ケアの援助を行っている。又、使用道具も個々に合わせたもの口腔内保湿にも気をつけ検討している。義歯の不具合や嚥下不要時は訪問歯科との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツを使わず、その方の排泄状況の把握に努めている。また、スキントラブルにも注意し、新しい商品にも目を向け積極的に使用し、パットの種類にも気をつけている。トイレ内の環境など自立した排泄ができるよう努めている。	おむつに関しても敏感な利用者の肌負担がないように、メーカーの特色を生かして当て方、使い方をレクチャーしている。睡眠優先を図るために個々の排泄パターンを細かく熟知していて、何時でも安心した排泄ができるように把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の種類について主治医と相談しながら、個々に応じた対応をしている。なるべく自然に出るように考え、乳製品・寒天・オリゴ糖等の使用や水分量の把握、適度な運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調などに合わせ時間や曜日を決めさせていただいている方もある。入浴予定日に希望されない時は時間や日を改めるようにしている。	1週間に2回。入浴を遠慮する方にも時間をずらしたり、日を変えたりして勤めている。機械浴も導入され、重度化対応で気持ち良い入浴ができるように、柔軟な支援を生んでいる。お湯は、一人ひとり入れ替え、清潔感を保つ気配りも素晴らしい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中と夜間の様子を把握した上でその方の体調を見ながら、日中居眠りや疲労感が見られる時はこちらから声をかけ休んでいただくようにしている。眠りスキャンを導入しご入居者様の眠りの状態の把握にも努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、薬剤師の方に同席頂き看護職員介護職員も話し合いに参加し薬の変更など責任を持って把握申し送るようにしている。内服に関する能力評価を行い個々に沿った形状や援助の方法も細かく決め配薬手順も十分に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前習慣としてされていた事、得意だった事を生活の中で行っていただけよう働きかけている方もある。その他、本人様の希望を伺いながら時間を設け取りいれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方に合わせて散歩や外出の機会を設けている。外出の企画では、遠くに行けない方もおられるため、そういった方の為には施設前でを行うような企画も取り入れている。町内行事や社内旅行企画のお誘いも行っている。	公園へ散歩や畑の水やりをしている。遠出もときに催し、牧場や渋川のマリンホテルに行き、パイクングを楽しんでいる。家族とのふれあいも尊重し、外出、外泊の機会も与えている。お盆、年末を家族と暮らしたい利用者も心待ちにしている、生活をマンネリ化しない工夫をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様のご要望を優先し、個人で管理できるような金庫の保管を促している。職員へ、本人様がお金を管理する大切さについて教育もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からご要望の際は電話を取次ぐ援助させて頂いている。日々の様子など、ご来訪時やお手紙にて報告し、最新の様子のお写真も同封している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じ食事中の雑音を消したり、それ以外の日常においても職員の歩くスピードや、話声のトーンなど援助の仕方にも配慮するよう心がけている。必要以上のものは片付け掃除しやすく、転倒などにも配慮した環境作りに努めている。季節ごとの装飾やお写真を掲示している。	日当たりの良いスペースは、自然と集まれる空間を醸し出している。職員も利用者と共に気楽にお喋りができる空間が、ほのかに伝わってくる。一人で過ごすことも束縛されないで、居室で自由に過ごすことができる。まさに自分の家そのものである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビの位置など、ご要望に配慮しながら変更している。お一人で過ごしたい方へも配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前まで使用していた家具をなるべく用意していただくようお願いしている。そのことについて良い効果があった事例もお伝えしたりし心地よく過ごせるような工夫をしている。	ゆったりとした居室は馴染んだものが、懐かしく語っているように配置されている。外を眺めている利用者も時を忘れてるように味わっていた。まさに我が家らしい。配置もスタッフがリスクを考え、安全な配置に移動できるよう常に気配りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に分かりやすい方法で伝わるよう、使用されている居室の把握や表示内容にも個人に合わせた表現にしている。		